

シニューってなに？

Qajaq (カヤック) のフレームを作る際に多用する蠟引きの糸。みなさん「シニュー (Sinew)」と呼んでいます。実際に使っているのはナイロン糸に蜜蝋や蠟を染み込ませた「人工シニュー」という代替品です。



本物の (天然の) Sinew とは、何でしょう？ 動物の筋、腱のこと、またはそれから作った糸や紐のことです。

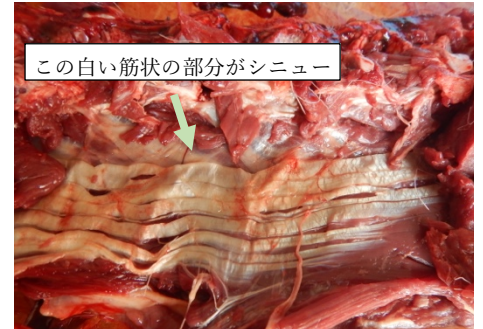
天然のシニューは、裁縫用の糸としては、丈夫で使い勝手の良いものだそうです。例えばアザラシ皮の防水ブーツ(「カミック」と呼びます)の縫い目に使うと、シニューが濡れることで膨張し、縫い目の穴いっぱいになり浸水を防ぐそうです(防水スティッチについては、いずれ特集しますので、お楽しみに)。

20年ほど前のアラスカで、「シロイルカ獲ったらシニュー欲しいから取っておいてね」と、婆ちゃんに言われた息子は、シロイルカの背骨の周りにある長いシニューを器用に切り取ると、婆ちゃんの元に届けていました。しかし、その婆ちゃんは既に天に召されており、当時、どのようにシニューを加工したのかは、今となっては不明です。

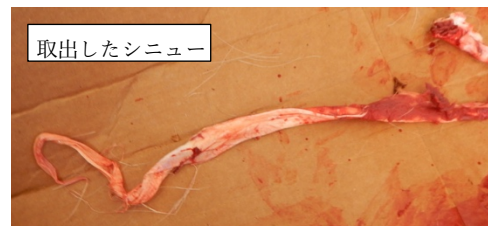
時は過ぎて、数年前のこと。久しぶりにカリブーを解体する機会がありました。既に内臓の抜いてある小型のカリブーなので、作業自体は楽です。この際だからついでにシニューも取りだしてみようと作業を始めました。

皮を剥ぎ、前後の脚を外します。後ろ脚には、乳白色の太いアキレス腱があります。当時は知りませんでしたが、これもシニューの素材として、とても良いものだそうです。今度機会があれば、ここも使ってみたいと思います。

解体が進み、肋骨を取り外すと、背骨に沿って白い腱が見えてきました。これがシニューです。



これを切り出し、周りについた肉をナイフで削ぎ落とします。ダンボールなどに貼り付けて、数日乾燥



させれば、シニューの元が完成です。

これを細く裂いて、繊維

状にしていきます。その繊維状のものを指で撚りあわせ、糸を作ります。

20年ほど前のアラスカ、バローの写真をみると、この

繊維を三つ編みにしたものを使って、ウミアック(アゴヒゲアザラシの皮を張った捕鯨用のボート)の皮を縫っています。



こうやってつくった本物のシニュー、簡単には切れない、とても頑丈な紐です。

もちろんウシやシカなどからもシニューは取れるので、興味があり、機会のある方は、お試しを。

文責：高沢進吾